

2009年(平成21年)

第21号

(9月15日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 宮地啓安
 〒605-0041 京都市東山区三条蹴上
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

京都教会50年の歩み（7回目）京都普門館発“世界平和”を目指して

■宗教協力・平和活動を推進した後藤教会長時代

平成6年12月、新道場建設に尽力された青嶋教会長の後任として、本部渉外部長の後藤益巳が京都教会長として新しく就任した。

普門館の名は、法華経の「普門示現（ふもんじげん）」に由来する。つまり、立場の異なるあらゆる人々に、真理の教えを示し、それを実際の生活・社会の中に実現することを意味する。

新道場建設により、京都教会は、会員が修行する教会と会員以外の方々との交流の場である普門館のふたつの役割を持つことになった。

1983年（昭和63年）から始まった庭野平和賞の受賞者の記念講演を平成6年から京都普門館で開催することになり、今日まで毎年開催されている。

その他、後藤教会長時代には、宗教協力と平和活動には力を入れてきた。宗教サミットへの参加、中韓日仏教友好交流会議の受け入れ、京都府宗教連盟・近畿宗教連盟の事務局を引き受け、京都府新宗連の交流促進と、今日の宗教協力活動の形が出来上がったのは、

この時期だった。

また、会員の平和に対する意識を高めようと、外部の有識者をお招きして、講演会が開催された。中でも、平成9年8月1日に、明石国連事務次長（当時）が招かれたのは、後藤教会長の人脈によるものであった。

青少年育成では、「ひまわりんぐフェスタ」が毎年実施され、多くの青少年が教会に寝泊りし、夏休みの楽しい思い出を作った。

■会員との交流を深めた滝瀬教会長時代

平成11年10月17日、京都教会40周年記念式典が行われた。新道場になって初めての周年記念式典だった。

その年の11月、後藤教会長が台湾教会長への転任が決まり、12月に姫路教会長だった滝瀬恵一が新しく就任した。

滝瀬教会長は、教えの原点に立ち返り、法座の充実を図り、自ら青年・壮年の中に溶け込んでいき、会員との交流を深め、会員の連帯感を強めた。そして、平成16年京都普門館設立10周年を迎える。

一食をささげる運動

◆ ゆめポッケ発送式

6月1日から始まったゆめポッケキャンペーン期間が8月31日、収集活動を終了した。京都教会では各家庭でポッケ作りを行い配布地域の現状を学び、平和の大切さやいのちの尊さについて語り合うことに力を注いだ。

参加者からは「家族全員で取り組むことができ良かった」「家族それぞれがメッセージカードを1枚ずつ書くことができた」など喜びの声が寄せられた。8月30日、ルバイジャン、アフガニスタン、パレスチナ自治区、フィリピン、レバノンに輸送され、NGO（非政府機関）や国連機関を通して現地の子供たちに届けられる。

小学生が務めた。たどたどしいご供養の中にも一生懸命さが伝わってくるご供養だった。発送式には23名の子供が参加。321

個のポッケがこの日、京都から本部に送られた。

全国の教会から寄せられたポッケは、その後、配布国となるアフガニスタン、パレスチナ自治区、フィリピン、レバノンに輸送され、NGO（非政府機関）や国連機関を通して現地の子供たちに届けられる。



時事刻々

今月は、秋の彼岸の月である。多くの人が墓参りして、先祖の霊に手を合わせ、日本では昔から続く、尊い習慣だ。昔の人は、四季の自然の移り変わりを神秘的なものとして受け取っていたのだろう。秋は、天地自然にいたいた実りに対する感謝の季節で、「いのち」の大切さを感じる時でもある。にもかかわらず、毎年3万人以上の人が、自殺している。先祖からいただいた大事なのを自ら絶たなければならぬのは、それぞれ事情があることかもしれない。しかし、自分のいのちは、先祖や自然、周りの多くの人々にいただいていものだと考え、自分よのちを大切に扱いたいものだ。明日、日本の政界に新政権が誕生する。一人ひとりのいのちを大切にすることを基盤とした政治が行われることを期待したい。

京都教会発足50周年記念式典の開催が近づく

11月1日に京都教会発足50周年記念式典が開催されます。式典には、多数のご来賓の方々をお招きして、会員が一同に会し、今日に至るまでお世話になった方々への感謝と、その意思を受け継ぐ私たちのこれからの精進を誓う集いとして開催されます。

今年に入ってから、多くのお手配をいただきました。5月の本部団参では、千人近い会員が集まりました。8月4日には渡辺理事長が、9月4日には会長先生が京都教会にご来道いただいた。これは予定外のことでありましたが、50周年を迎える私たちに力をいただいたものになりました。

今回の記念式典では、教団代表として、酒井教雄参務の講話があります。そして、特別ゲストとして、非暴力平和主義を訴えられたガンジー翁の孫娘であるエラ・ガンジー女史の講演をいただく予定になっています。

あと1ヶ月ほどで記念式典を迎えます。50年は半世紀。単にお祝いするのではなく、これまでのことを反省し、明日に向かって新たなスタートを切る気持ちを

持つ必要があります。つまり、会員にとって、仏さまや開祖が願われたことを実現できるように取り組むことが大切となるのです。

そのような式典が举行されますので、みなさまには、温かい応援をいただきたくお願いしたいと思っています。

[記念式典開催要領]

■日時

11月1日(日) 9時30分～12時20分

■場所

京都教会 2F 法座席

■主な内容(予定)

- 前奏 森琢磨先生のパイプオルガン演奏
- 奉献の儀 会員代表
- 読経供養
- 講話 教団代表 酒井参務
- 講演 エラ・ガンジー女史

『ダーナ』創刊

「心田を耕す」生き方を紹介する壮年向けマガジン『ダーナ』が9月15日、佼成出版社から発刊されます。現代社会を生き抜く智慧(ちえ)やヒント、暮らしに生かす情報を満載、読みごたえのある内容です。



特集「再発見、学び力」では、エジプト古代文明に造詣(ぞうけい)の深いサイバー大学学長の吉村作治氏や作詩・作曲家の小椋佳氏を取材。創造の喜びなど、「知」の魅力について解き明かします。また、世界的な建築家である安藤忠雄氏にインタビュー。人生の中で経験した数々の失敗

を通して、すべてのことを糧にして生きる"安藤流生き方指南"を紹介しします。さらに、「シリーズ 幸せ力」では、『つながる力こそ、幸せの一步』と題して、政治学者の姜尚中氏が幸福をもたらす生き方を示すほか、作家で僧侶の玄侑宗久氏や仏教評論家のひろさちや氏が仏教を基盤とした考え方を説きます。

A4判変型、56ページ。隔月で年間6回(今年度は5回)発行、定価1冊350円(税込)。一部地域で書店販売されます。教会を通じた今年の年間購読申し込みはすでに終了しましたが、直接自宅への配送を希望する個人に、年間購読(対象6冊/1800円・税込)を随時受け付けています。

Webサイト <http://www.dananet.jp/>

フリーダイヤル 0120-538-507まで。

今回は「諸宗教対話～開祖の願いをこの京都の地に～」をお休みとさせていただきます。

他教団活動紹介

(文化時報9月9日より)

●戸津説法が満講

伝教大師が両親の追善供養を兼ねて、一般大衆に法華経を説いたのが始まりとされ、近年は“天台座主への登竜門”といわれる戸津説法が8月21～25日まで、下坂本の東南寺で行われた。本年は濱名徳永観音教寺住職が説法師に任ぜられ、伝教大師の身代わりとして法華経の教えを生活の中にとどように活かしていくのかを分かり易く説いた。

京都教会 あの日あの時



昭和54年5月

「国際児童年」にあたるこの年、京都教会は発足20周年を迎えた。この日、会長先生(開祖)が来道され道場は溢れんばかりの会員さんでいっぱいになり21年目へのスタートを切った。

50年前(1959年)の出来事：9月26日、伊勢湾台風が紀伊半島に上陸して北上、東海各地に深いツメ跡を残しました。

仏教を生活に生かす

「さまざまな縁にふれて心の転換を」

《願いによって生まれてきた》

庭野開祖がアメリカを訪問された時のことです。現地の教会に立ち寄り、信者とふれ合う機会がありました。当時、現地の信者のなかには、終戦直後にアメリカ人と結婚して、アメリカに移り住んだ女性がたくさんいました。

その中には、夢を持ってアメリカに来たけれど、言葉や文化の違いで苦労し、夫とも心がすれ違って離婚。そして、そういう中で育った子供のことでまた苦労するという、苦労を重ねた生活をしている人もいました。

立正佼成会に出会い、修行してきたけれど「遠く日本を離れて、寂しく暮らす人生になってしまったのは、自分のどこがいけなかったのだろう。親不孝の懺悔(ざんげ)だろうか」と、嘆く日々でした。

そんな思いを打ち明けた信者に、庭野開祖はこう語りかけました。「あなた方はみんな菩薩さまだね。こんな苦労を背負っても、アメリカに法華経を弘めよう、そう願って生まれてきた大菩薩さまなんだね。」

この庭野開祖の言葉を聞いたアメリカの信者は、みんな涙を流したそうです。苦しかった人生のすべてが報われた、温かい涙です。「願って」生まれてきた心境になれた時、人生の苦しみ、悲しみが、解決すべき問題から、仏さまの慈悲の導きが変わったのです。

法華経の法師品(ほっしほん)に「是の諸人らはすで

にかつて十萬億の仏を供養し、諸仏の所において大願を成就して衆生をあわれむが故にこの人間に生ずるなり」とあります。法華経の真理をそのままに信じた庭野開祖の眼で見ると、「人は皆、仏の子」で「人さまを救うために、願って生まれてきた人」です。「願って生まれてきたのだから、どんな苦しみにも耐えなさい」という意味ではありません。

「原因(悪因)」という名の理由を探すことをやめ、「願い(目標)」という名の理由に目を向けることで、苦しみに出合っても、むしろ自分の「願い」を実現するための証と思えてきます。そう思えることによって、本当の自分が見えてくるのではないのでしょうか。

【業によってこの世に生まれてきたのか、願いによってこの世に生まれてきたのかは、その人の自覚によって決まるものであると言えるのです】

この自覚はどうすれば得られるのでしょうか? 「十萬億の仏を供養」したとは、出会ったすべての縁から学んできたこと。そして、「衆生をあわれむ」というのは、「人さまの幸せ」を願うということでしょう。

普通私たちは、思いどおりにいくと自分の力だと思いい、そういかないと他人のせいにしてがちです。それでは自覚は得られません。すべての縁を神仏の教えだと受け取り、そこから自分が何をすべきかを気づき、実践することから、第一歩が始まるといえるでしょう。

ここが聞きたい! 「藤末健三参議院議員に聞く」(3)

《国民の政治意識の向上について》

【Q】あれだけ話題満載の東京都議選であっても、投票率は高くなりませんでした。どうすれば、国民が政治に関心をもって、投票率を高め、国民の意思を反映した政治ができるようになるのでしょうか?

【A】今回の衆議院選挙では、全国平均の投票率が69.28%と、現行制度では過去最高の投票率となりました。これは今回の選挙が「戦後初めて選挙による政権交代」を実現出来る機会であると有権者の皆様が考えられたからだと思います。

また、連日にわたる報道などにより、一種の国民的イベントとしてとらえられた感もありました。しかしながら、おっしゃる通り、衆院選の約1ヶ月前に行われた東京都議会選挙の投票率は54.49%とあまり高いとは言えません。

そのため、今後は国政選挙のみならず、各自治体における政治の役割などをきちんとお伝えしていくとともに、インターネットによる選挙活動の解禁や駅前やショッピングセンターなどに投票所を設置するというハード面の改善を進めていくことが重要だと考えます

《政治と宗教について》

【Q】私たちは信仰心をもった政治家に期待しています。それは、信仰心には「世のため、人のため」という精神があるからだと思います。また、信仰者が政治に関心を持つことは、「世の中のためになりたい」と思う信仰に忠実であれば当然のことだと思います。しかし、宗教団体と政治権力が結びつくことは、人々の精神と生活を縛りつける可能性があるのは歴史が証明しています。この点について藤末さんの考えを聞かせて下さい。

【A】私は政治と宗教は「車の両輪」と考えています。それは、おっしゃる通り「世の中のためになりたい」「人々を幸せにしたい」という軸でつながれ、「同じ方向」へと進んでいくということでもあります。

ここで大事なのが、車の両輪は「離れているほど安定する」ということです。政治と宗教が近づきすぎてしまうと、それは非常に不安定な状態になってしまいます。政教分離の原則を遵守しながら、政治家と関わりを持っていただき、太い軸を作っていただきたいと考えます。

庭野開祖の宗教観・平和観 「一乗の道」

《神仏に遣わされて》

「グリーン・ライトはつきましたか」「いや、まだなんです。まだ見通しがつかないのです」「これで、本当に来年、第二回会議を開けるのだろうか」世界宗教者平和会議の役員が顔を合わせると、そんな言葉が交わされるようになった。ニューヨークで国際委員会を開き、「世界会議を今後四年ごとに開催していく」ことを決め、さしあたって「第二回会議は、昭和四十九年にヨーロッパで開く」ことが決定していた。

すぐさま第二回会議開催への根回しの活動が開始され、庭野開祖はグリーリー博士らと共に、西ドイツ(当時)を中心にヨーロッパの宗教指導者を訪ねてまわった。マリア・ルッカー博士(WCRP ヨーロッパ委員会委員長)らの案内で、西ドイツのグスタフ・ハイネマン大統領にお会いして、京都会議の成果を報告した。

世界の宗教指導者三百人余が一堂に会し、真剣に世界の平和のために討議しあったことを、詳しくお伝えして第二回会議についての協力をお願いした。ハイネマン大統領は熱心なプロテスタントで、一行の説明に耳を傾け、答えられた。

「皆さんのご努力に感嘆します。私の個人的な意見として言えば、全世界の宗教者が集まって平和を語り合う場所としては、ベルリンが最もふさわしいのではないかと考えます」会見は一時間におよび、西ドイツの新聞やテレビが大きく報道した。

西ドイツはカトリックとプロテスタントが国教として認められていて、それぞれの信者が相半ばするヨーロッパのキリスト教世界を象徴する国である。さらに、ベルリンは社会主義圏と自由主義圏に二分された当時の世界の構図をそのままに見せてくれている都市でもある。まさに世界会議を開催するにふさわしい場所だった。「第二回会議は、西ドイツで開催できそうだ」と、ほぼ見通しがついたように思えた。

役員たち一行は、西ドイツのプロテスタント教会政府部門代表であるクンスト師や、のちに西ドイツ大統領となったリヒャルト・バイツゼッカー博士らを訪ね、京都会議の模様を報告して第二回世界会議開催への協力要請を続けた。とりわけクンスト師を訪ねて交わした会話が、庭野開祖は忘れられなかった。

クンスト師は、いきなりこんな質問をぶつけてきた。「あなたは、どういう資格で私たちの所へ訪ねてこられたのか」まったく予想もしない質問だった。(世界会議への参加を呼びかけて世界をまわっているが、さて、いったいどういう資格でこの活動に打ち込んでいるのだろうか)庭野開祖は自問して、クンスト師に答えた。

「私は立正佼成会という在家仏教教団の会長ですが、世界の宗教者が力を合わせれば必ず平和は実現すると信じて、皆さんのお力をお貸し頂きたいとお願いしてまわっているのです」

立正佼成会を創立し、新宗連の結成に加わり、宗教がたがいに協力していくには、誰かが自分を投げ出してその使い走り役を引き受けなければならない、その役に徹してきただけなのであると、WCRPのこれまでの活動の経過をありのままに話した。するとクンスト師は、さらに鋭い質問をされる。「あなたは、神を信じておられるか」多分、仏教徒は無神論的な考えをしているもの、とクンスト師は考えられたのだろう。「絶対神を認めないで、宗教と言えるか」と遠慮会釈もない。

ヨーロッパの人たちの中には「進んだ一神教、遅れた多神教」という認識が少なからず存在しているから、無理もないことかもしれない。庭野開祖は返答した。「人間の世界に姿をあらわして仏の教えを説かれた釈尊は、不生・不滅の永遠の生命をもたれた仏さまが、必要あってこの世に人間として生まれて教えを説かれた方で、つまり迹仏(しゃくぶつ)にほかなりません。

それは、あなた方の父なる神と、その神によってこの地上に遣わされたイエス・キリストの関係と同じではないかと思えます。私は、その本仏の命によってここに参りました。あなたの天にまします神は、同じ事をあなたにお命じになってはおりませんか。その神のお声があなたにも聞こえているではありませんか」

クンスト師は初めて大きくうなずいた。「わかった。よくわかった。あなたとの今日の出会いは実に意味深い、貴重な出会いだった」庭野開祖の体を抱かんとばかりにして、クンスト師は大きな手で握手をしてきた。案内役のマリア・ルッカー博士が「今日の話し合いは、じつに哲学的ないい話だった」と、さかんに感心していた。(つづく)

渉外部からのメッセージ

ご存知のマリナーズのイチロー選手。この平安月報がお手元に届く頃には9年連続200本安打を達成しているかもしれません。凄いことですね。今年は開幕から故障者入りとなり、夏の後半にはふくらはぎの痛みから8試合を欠場してのことですから毎年とは意味合いが違うと思います。メジャー入りするまで国内で

実績はあっても所詮「日本野球の記録」と冷ややかだったアメリカも9年連続となるとその快挙を認めざるを得ません。そして日本の政界。民主党には国民に認められるような実績を挙げてもらいたいものです。この月報を読まれて感想などがありましたらお気軽にお寄せ下さい。 RKK 京都教会 FAX 075-762-2266